

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	学校へ行くことが楽しい
②	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
③	

分析	生徒間の人間関係がある程度望ましい状況になっている。
2学期からの取り組み	継続していけるように見守り・声かけを行う

【 数値が特に低かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。
②	
③	

分析	特に土日の学習時間が少ない。
2学期からの取り組み	土日に学習へ向かうような説話を担任、教科担当でそれぞれ行う。

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 3年生 国語科 》

### 全体の概要

正答率は全国、県平均とほぼ同じである。内容でやや上回るのは、話すこと・聞くこと、読むこと（県平均より大きく上回る）、評価の観点では、思考・判断・表現である。問題形式では記述式が、やや上回った。内容でやや下回ったのは、我が国の言語文化に対する事項である。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題と助動詞の働きについて理解する問題が大きく上回った。また、漢字の書き取りと表現技法の問題でやや下回ったものがあった。助動詞は授業中に問題を数多く解かせた結果だと言える。漢字は文脈を通して理解することができていないため、知ってはいても使えなかったのではないかと考える。表現技法は同じ技法が使われているものが探せていなかった。また、行書の特徴やそれに調和した仮名の書き方の理解が、大きく下回った。これは、行書について授業で扱う場面が少ないことが原因だと言える。</p>	<p>・全国や県平均と比べ、下回った点について。漢字の書き取りは、必ず文脈の中での使い方を練習させるようにし、日常使えるように指導する。そのためには漢字ドリルだけでなく、読書の推奨も大切だと考える。また、表現技法は文章を書く時に、1カ所は工夫して使うように指導していく。</p> <p>・行書の指導は書写の授業にとどまらず、古典の原文（仮名文字）に触れさせたり、掲示物の文字の工夫をさせたり、行書作品を紹介したり、日常生活の中で数多く目に触れさせる機会を作ることが必要である。生徒が日常で使う機会が少ないため、意図的に示していかないと身につかないと思われる。</p>
思考・判断・表現	<p>・スピーチの一部を聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する問題や、意見文の一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する問題が、全国、県平均よりも大きく上回っている。授業中に、話し合いや自分の考えを述べたりする場面を設定しているためであると言える。また、根拠を明確にしたり内容を解釈したりして書く、という問題で無回答率が大きく下回った。これは、授業だけでなく学校全体で「書く」場面がある時（学校行事など）に、最後まで書く習慣が身についているためだと思われる。</p>	<p>・思考・判断・理解、の領域では、ほぼ全国・県平均と同じか、上回っているかであった。特に3年生1年間だけでは定着するのが難しい部分（書く習慣など）は、1年時から継続して指導していく必要がある。3年間を見通した国語科の授業にとどまらない取り組みの工夫（講話の後の感想書きや全校で書く取り組みがある場面では、必ず最後まで書かせるなど）が大切だと言える。</p>

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 3年生 数学科 》

### 全体の概要

全体の正答率は県平均より大きく上回っている。特にデータの活用領域では全国・県ともに大きく上回っている。しかし、関数領域においてはほぼ同じ正答率になっている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素因数分解の問題では、1年生で学習した後、その内容を使う機会がほぼないためか、正答率が大きく下回っている。</li> <li>・答えを求めることはできるが、選択問題などまぎらわしい内容が与えられると、正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストなどを利用して、復習する機会をもつ。</li> <li>・定期テストなどにおいて、適当なものを選択させ、なぜそれを選択したのか理由までかかせる問題を出題する。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えを求めることはできるが、その解き方の手順や方法を説明することはできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において、言葉で説明する場をもつとともに、ワークシートなどに説明を記述させる。</li> </ul>

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 3年生 理科 》

### 全体の概要

どの分野においても、県平均さらには全国平均と同等か、少し上回ることができた。しかし、個別の設問を見ると、知識・技能を活用させて解く問題や分析して正しい解釈を導く問題においては、県平均や全国平均を下回っていた。2学期以降の授業実践においては、知識・技能を活用しながら思考・判断を深める問題に取り組み、更なる学力向上に結びつけたい。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容と日常生活との結びつきができていない。</li> <li>・基本的用語を覚えることができていない。特にグラフを作成する技能において課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と関連付けながら学習させる。</li> <li>・小テスト等を利用し、知識の定着を図る。また、グラフの基本的な知識を復習すると共に、課題に正対した考察ができるように、グラフの見方や考え方について学習させる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図、グラフの読み取りが苦手。</li> <li>・実験の条件を読み取れず、結果を整理できていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図、グラフを基にして考察する機会を増やす。</li> <li>・文章中に印をつける、図にまとめるといった習慣を身に付けるように指導する。</li> </ul>